

森林工芸館の

あれこれ

no.42
9
2023

森林工芸館のあれこれ no.42 では
【日本の手仕事道具集】

「秋岡コレクション」を知ろう」として

秋岡さんから寄贈された「秋岡コレクション」を
分類ごとにまとめた資料集について取り上げます

これまでに

このブックレット編集に携わった研究員は三名
それぞれが各年代で必要とされてきた業務を進め
多くの方に協力をいただきながら

編集が進められたブックレットですが
その背景や経過について知る機会はい

あまりなかったのではないのでしょうか

来月から始まる秋岡コレクションの企画展前に
改めてこの資料集について知るきっかけになればと
今月のあれこれで取り上げることとしました

日本の手仕事道具集 - 秋岡コレクション - を知ろう

秋岡コレクションを今後どのように活用していくのか
40周年を機に問われるその存在意義
ブックレット発刊の背景に見える
活用の目的について見てみましょう



ブックレット「日本の手仕事道具集 - 秋岡コレクション」

ブックレット「日本の手仕事道具集 - 秋岡コレクション」は、平成 19(2007) 年 3 月 30 日に第 1 集を発刊した後、およそ 10 年の歳月をかけ、平成 30(2018) 年 8 月 31 日に第 28 集を発刊し、終刊を迎えました。終刊までにかかった期間だけでおよそ 10 年。発刊までには、さらに膨大な数の資料の調査・研究作業が行われてきました。

秋岡コレクションが置戸に一括寄贈されたのは、秋岡さんが逝去された同年、平成 9(1997) 年 12 月。翌年、平成 10(1998) 年 4 月からは、資料整理のため秋岡さんの事務所でアシスタントを務めていた増田倫子さんが初代研究員として配置され、置戸町へ移住されます。



【第1集「鉋 その一」】 始まりました。

増田さんは資料整理のほか、資料の手入れや企画展示を並行して実施するなど、広め、伝えるための活動を地道に続けられました。平成 19(2007) 年 3 月には資料整理がほぼ終了し、整理された資料をもとに第 1 集となるブックレットが発刊されます。また、後継となる高橋佳子さんが二代目研究員として配置され、5 月からは整理された資料情報を PC 上のデータベースへと編集する作業が

膨大な数の資料整理

秋岡さんから寄贈された資料の総数は当時の記載で 2 万 3 千点（現在、整理された資料総数は 1 万 8 千点とされる）。それら膨大な数の資料を保管し管理するため、「A/ 製作のための道具」「B/ 食のための道具」「C/ 暮らしのための道具」「D/ 生業のための道具」「E/ 秋岡作品」「F/ その他」「G/ 名称・用途不明」として分類。さらに道具の種類ごとに細かく分類し、全ての資料に通し番号をナンバリング、記録写真を撮り、調査内容をまとめるという作業が地道に続けられました。



【資料ナンバリング】



【A分類：製作のための道具】

ブックレット発刊へ

秋岡コレクションは、秋岡さんが全国各地でのデザイン活動を通じて収集した、「生産と生活が一体化していた時代を伝えるものとして、次世代に残すべき資料」です。資料から見える過去の生活や生産の様々な情報から未来のデザインを生み出し、置戸町が将来にわたり地域資源や素材を活用し、自分たちの暮らしを工夫して新しい生産や生活技術を生み出すための有効な手がかりとして活用されるものです。その一歩として、ブックレット「日本の手仕事道具集 - 秋岡コレクション」は、資料を後世に伝えていくためのひとつの手段とされます。

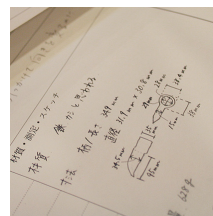


▶ ブックレットには、資料写真、資料名、分類、サイズ等の基本情報が掲載されているほか、使用方法や製作方法、製作者などを掲載。また巻頭には、関連する技術や専門道具についての解説、資料のカラー写真などを掲載。

▶ 「日本の手仕事道具集 - 秋岡コレクション」は、オケクラフトセンター森林工芸館でご購入いただける他、電話、メールでのご注文も承っております。ご興味のある方はぜひご連絡ください。
▶ また、オケクラフトセンター森林工芸館の他、置戸町立図書館でご覧いただけます。

資料整理の基本となる紙ベース

資料整理の基本となる紙ベースは、歴代研究員の手書きで資料のサイズや歴史背景などがまとめられています。インスタントカメラで撮影し、現像された資料写真が貼り付けられている等、研究員の試行錯誤や歴史が見られ、秋岡コレクションと合わせて、時代を知る重要な資料の一つといえます。



ここにまとめられた資料情報をもとにして、PC 上のデータベースは編集が進められ、現在も更新されています。